

「ありがとう」と「あたりまえ」

校長 平岡 淳

幼少の頃、「人から何かしてもらったら『ありがとう』と言いなさい。」としつけられた人も多いのではないのでしょうか。プレゼントをもらった、落ちた物を拾ってもらった、友達から褒める言葉を言ってもらったときなど、「ありがとう」を伝える機会はたくさんあります。先日あるクラスで、自分の席の前の人が配布物を渡してくれたとき、自然に「ありがとう」と言っている生徒をみかけました。その光景を見てとても温かい気持ちになりました。

その「ありがとう」という言葉の対義語はどんな言葉でしょうかという問いに出会いました。「ありがとう」を漢字で書くと「有難う」です。有ることが難しい、つまり貴重だとか、奇跡ということになります。奇跡の反対は、「当然」とか「あたりまえ」ということになります。ですから、「ありがとう」の反対は「あたりまえ」です。

日頃、「あたりまえ」と感じていることに対して、「ありがとう」という感謝をもつことはなかなか難しいものです。夜になるとぐっすりと眠れること、朝になると目覚めること、息ができること、食事ができること、友達と出会えること、しかし、こんなあたりまえがずっと続いていくという保証はどこにもありません。毎日のように報道されている戦争や紛争、日本国内でもここ数年来起こっている地震や津波、大雨などの自然災害。これらによって「あたりまえ」が「あたりまえ」でなくなってしまうことがあります。数年続いたコロナ禍の中でも、「あたりまえ」が失われました。私たちもそういった経験をしてきています。

年末になると大掃除をしたり、お墓参りに行ったり、年越しそばを食べたりします。そんな時に今一度、「あたりまえ」に感謝しながら、新しい年の目標を立てて、新年からも充実した日々が送れるように決意を新たにしていきたいと感じています。



「あたりまえ」 井村和清

こんな素晴らしいことを、みんなはなぜよる
こばないのでしょう
あたりまえであることを

(中略)

食事が食べられる
夜になるとちゃんと眠れ、そしてまた朝がく
る
空気を胸いっぱいにする
笑える、なける、叫ぶこともできる
走りまわれる
みんなあたりまえのこと
こんな素晴らしいこと、みんなは決してよる
こばない

そのありがたさを知っているのは、それをなく
した人たちだけ

※井村和清（いむらかずよし）さんは、お医者さんをしていましたが、病気のため32歳という若さでこの世を去りました。この詩は亡くなる直前にまだ幼い娘とこれから生まれてくる子どもに送った手記です。